平成２８年度学校評価アンケートに基づく報告

（１）　対象者：保護者（回収率８８．８％）　　教職員（１００％）
（２）　アンケート項目：保護者２６項目　　教職員３０項目　　※１から２６項目までは共通
以下、質問項目及び結果を示す。
【評価基準】Ａ＝そう思う　　Ｂ＝まあまあそう思う　・・・・肯定的評価
Ｃ＝あまりそう思わない　　Ｄ＝そう思わない　・・・・否定的評価
※数値の単位：Ａ～Ｄは％　　無回答は人
（無回答を除外した数を母数として算出）

Ⅰ　情報発信・連携

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答
1	保護者に、学校目標や学校経営の重点目標をわかりやすく伝えている。	保護者	35	46	17	2	
		職員	29	60	11	0	
2	保護者に、各種たよりや連絡帳等で、必要な情報や子どもの様子をわかりやすく伝えている。	保護者	60	31	8	0	
		職員	63	37	0	0	
3	ホームページや学校公開（土曜スクール、オープンスクール）、公開研究会等で学校のことを外部に発信している。	保護者	28	59	13	0	2
		職員	54	37	9	0	
4	担任や学校は、保護者の声に耳を傾けて、連携を取りながら、教育活動や学校運営を行っている。	保護者	60	29	8	2	
		職員	51	46	3	0	
5	学校は、関係機関（大学、地域の自治体や学校等）と連携が図られている。	保護者	28	53	19	0	1
		職員	37	49	11	3	

（自己評価）保護者・職員共全ての設問で80％以上が肯定的評価であった。一昨年度から保護者への学校の教育目標や学校経営の重点目標の説明の機会を増やしたが昨年度は5ポイント、今年度は1ポイント下がっている。その他の項目では、概ね昨年度並みの回答であったが、項目5の大学などとの連携について5ポイント減少している。今年度力を入れて取り組んできた部分であったが、この部分での保護者への情報提供が不足していると考えられる。ホームページなどを活用しての情報発信を続け、目に見える連携を進められるよう、関係機関と関わっていきたい。
（学校評議員評価）学校運営方針が保護者に伝えられたことは良いこと。ていねいな説明がどこでも求められているので、引き継いで欲しい。「そう思わない（D評価）」があることは気になる。保護者の思いを良く汲み取って進めて欲しい。

Ⅱ　環境・安全

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答
6	学校内は、美化・整理整頓が行き届き、清潔感がある。	保護者	19	54	25	2	
		職員	17	40	34	9	
7	施設や備品など学校内の教育環境は充実している。	保護者	15	54	27	4	
		職員	9	43	34	14	
8	子どものけがや病気が発生した時の対応は適切に行っている。	保護者	60	38	2	0	
		職員	43	49	9	0	
9	学校は、災害への対応や、事故を防ぐための対応など、安全管理や危機管理に努めている。	保護者	40	48	10	2	
		職員	37	49	14	0	

（自己評価）環境について、項目6で保護者は昨年度同様低い評価だが、職員一同、相当な努力をし、12ポイント上がっている。逆に職員は26ポイント下がり、昨年の肯定的評価を維持できなかった。校舎の老朽化もあり、毎年厳しい評価を受けている。大学側もいろいろと気遣ってくれており、建物は古くても、子どもたちのためにできることはきちんとやろうという職員の思いはあるが、形にしにくい一面が表れている。項目7の設備や備品は、保護者が18ポイント、職員が15ポイントの上昇が見られた。教育活動のやりにくさを表す一つの指標だと考えられるが、少ない予算の中、この部分の予算はできるだけ減らさないようにつとめてきた結果だと考えている。大学と協議しながら、これからも教育環境を整える努力をしていきたい。項目8，9（安全面）については保護者・職員とも、概ね高い評価である。設備面での努力だけでなく、HPS（ヘルスプロモーションスクール）の認証にむけての取り組みを行い、平成29年度から認証を受けることになった。継続的な取り組みを行っていきたい。

Ⅲ　年間計画・行事

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答
10	年間の計画は教職員、子ども、家庭にとって無理のない、適切なものになっている。	保護者	50	40	8	2	
		職員	26	46	20	9	
11	魅力のある学校行事（運動会やふよう祭など）が実現されている	保護者	38	40	21	2	
		職員	43	54	3	0	
12	入学式・卒業式など儀式行事は、趣旨に合った適切なものとなっている。	保護者	44	52	0	4	
		職員	66	34	0	0	
13	各学部の行事は、子どもたちの発達段階に応じた適切なものとなっている。	保護者	50	35	13	2	
		職員	34	63	3	0	

（自己評価）項目10について、職員の評価では、72％となっており、職員の4人に1人程度は肯定的ではない評価となっている。保護者は肯定的な評価であるが、項目11の学校行事では逆に保護者は肯定的ではない評価となっている。保護者が教育活動を実際に目にするのは学校行事が多いことを考えれば、教育活動への評価がそれほど高くはないと考えられる。学校行事の精選を進めてきている経緯があるので、この変化に対しての評価であろう。具体的にどのような事なのかを確認し改善したい。項目12（儀式行事）は職員・保護者とも、高い評価であった。児童生徒に適した行事を検討してきた部分が認められたと考えて良いのではないか。

Ⅳ　教育活動

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答
14	教育活動は、子どもたちが自分から目当てと見通しをもって自立的・主体的に活動できる内容となっている。	保護者	33	58	8	0	
		職員	40	51	9	0	
15	各学部の教育活動は、卒業後、自立し、働く活動を中心とした社会生活につながるような内容となっている。	保護者	35	56	6	2	
		職員	43	51	6	0	
16	教育課程の中心となっている、生活単元学習や作業学習は、児童生徒の成長に十分効果を発揮している。	保護者	50	42	8	0	
		職員	47	53	0	0	
17	各学部の教育課程（週日課等）は適切である。	保護者	42	54	4	0	
		職員	35	50	15	0	
18	体力の向上、健康管理、食育など健康面の教育は、適切に行っている。	保護者	63	31	6	0	
		職員	26	56	15	3	
19	個別の教育計画について保護者と十分話し合い、経過や結果について丁寧に説明している。	保護者	58	33	8	0	
		職員	51	49	0	0	
20	個別の教育計画や通知表（双葉の芽）の内容は、子どもの実態に合ったものとなっている。	保護者	65	33	2	0	
		職員	46	51	3	0	

（自己評価）保護者は全ての項目で、90％以上の肯定的評価であるが、7項目のうち3項目で1～5ポイント下がっている。毎年行っているアンケートなので、評価が下がったり上がったりすることはあるが、この部分は学校の核心となる部分なので高評価を維持したい。職員の評価では、項目17（教育課程）・項目18（体力の向上など）については、80％以上、それ以外では90％以上の肯定的評価である。項目17・18とも微増ではあるが昨年と比べて上がっている面を評価したい。特に項目18については、HPSの取り組みもあり、体育的活動への取り組みについて検討を進めてきた部分である。継続して推し進め、健康な身体づくりを目指したい。教育活動と個別の教育計画の関連について、保護者への説明をしっかりと行い、協力してさらなる向上を目指したい。
（学校評議員評価）健康な身体作りについては、普段の学習に反映されていて良い。居住地は様々と思うが、交流及び共同学習は是非、進めてもらいたい。

Ⅴ　職員

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答
21	教職員は、熱意をもって教育活動にあたっている。	保護者	64	30	6	0	1
		職員	71	20	9	0	
22	教職員は、子どもの気持ちを受け止めてきめ細かく対応している。	保護者	45	47	9	0	1
		職員	60	34	6	0	
23	教職員の言葉遣い・態度など、職業人としてのマナーは適切である。	保護者	66	30	4	0	1
		職員	49	40	9	3	

（自己評価）全ての項目で、保護者は90％以上、職員は項目23（教職員のマナー）について以外は90％以上の肯定的評価であった。項目23の評価では、日常的に児童生徒と接する職員への評価として昨年度の80％は高い評価とは言えなかった。この項目は保護者より職員の評価が低く、児童生徒への接し方への自覚はあるが、望ましい接し方について、お互いに声をかけたり注意したりすることができる職場の環境づくりが必要であると考え取り組んできた成果が9ポイントのアップにつながったものと考えている。

Ⅵ　児童・生徒

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答
24	子どもは、学校生活を楽しみに登校している。	保護者	69	31	0	0	
		職員	76	24	0	0	
25	子どもが、自分からやろうとすること（自分でやりたいと思うこと）が増えてきている。	保護者	60	33	6	0	
		職員	60	40	0	0	
26	子どもに、挨拶や着替え、社会のルールなど自立するために必要な力が身に付いてきている。	保護者	43	49	9	0	1
		職員	49	51	0	0	

（自己評価）職員・保護者とも全ての項目で90％以上の評価であった。職員は3項目とも100％であり、児童生徒の良い面を評価しようとしていると同時に、学校生活を楽しいものにしようとした努力に自信を持っている様子がうかがえる。一方、保護者の評価でも、項目24は100％であり、児童生徒が学校生活を楽しみにしている様子がうかがえる。これは、学校として、教職員として何よりの評価であると考えている。保護者と学校とが協力して取り組み、継続していきたい。

Ⅶ　附属の役割

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答
27	研究校として、実践的研究を行い、有用な取り組みを外部に発信している。	職員	26	57	11	6	
28	県内や地域における特別支援教育の推進に努めている。	職員	26	49	23	3	
29	大学や教育学部と連携が図られ、お互いに必要な関係となっている。	職員	26	60	9	6	
30	教育実習生に必要かつ適切な指導を行い、有為な教員養成を行っている。	職員	46	29	26	0	

（自己評価）項目27（研究・発信）は微増である。ここ2～3年、研究テーマや公開研究会のあり方が変わってきている。自らの新しい取り組みに対する自信と、まだまだという謙虚な部分が合わさった評価だと考えている。項目28（県内や地域への特別支援教育の推進）が、75％の肯定的評価ではあるが昨年より7ポイントアップし、項目29（大学や教育学部との連携）が昨年度の72％から、86％と大きく評価を上げている。今年度から教育学部の先生方に研究の共同研究者としてお願いし進めてきた。何度も学校に足を運んでいただきご助言いただいた。その部分を連携と評価している。項目30の教育実習生への指導については13ポイント下がっている。原因は、実習評価のしにくさと指導環境にあると考えている。教育実習については、今年度、連携研究において評価の在り方を含めて研究を行ってきた。次年度以降、実習の評価やそれに基づいた指導など改善されるだろう。
（学校評議員評価）附属特別支援学校の教育目標の根底を追求していくと、研究をすることは使命である。今後も外部に発信して欲しい。県全体を支える人材を育成して欲しい。